

令和2年3月27日

教育学部長 殿

教育学部 FD 委員会  
委員長 福田 亘博

令和元度(平成31年度)学生による授業評価、教員による授業点検シート、学生の授業外学修時間及び授業評価 GPA と受講者数の関係に関する報告書

教育学部における学生による授業評価は、平成26年度開学以来専任教員のみを対象に実施してきた。また、授業評価を受けて、教員個々における授業点検に行い次期あるいは次年度の授業に向けた振り返り・改善を行ってきた。その後、平成30年度より学外講師(非常勤講師)による担当科目にまで拡大し、教育学部が開講しているすべての授業等「教養用教育 分野(教養基礎科目、教養発展科目)、専門教育分野(専門基礎科目、専門科目)及び卒業論文」について学生による授業評価結果を整理・公表した。今年度も専任・学外講師によるすべての授業科目等において学生による授業評価を行った。授業評価は Web 入力によるアンケート形式で実施し、評価は従来通り行った。

令和元年度には、前・後期における「学生による授業評価」は学期末試験1~2週間前に実施し、それらを集約した後、専任教員を対象に「教員による授業点検シート」による振り返りを依頼・提出・総括し、教員個々における「PDCA サイクル」を取りまとめた後、教育学部として学生による授業評価結果及び教員個人の授業点検シートを取りまとめて組織的な PDCA サイクルを行い、今回の報告書にあるように自己点検評価を行った。

#### 【学生による授業評価】

授業評価アンケートは Web 入力システムを用い、前期分は7月17日~7月31日までに間実施した。授業評価項目は、例年通り、「1. 学生の受講態度について③ 項目」、「2. 授業内容につい

て 6 項目」、「3. 授業の進め方について 4 項目」、「4. 担当教員 について3項目」、「5. その他 2 項目」について)について行った。回収率は 1 年生 45 人(88.2%)、2 年生 36 人(85.7%)、3 年生 33 人(78.6%)、4 年生 28 人(87.5%)であった。後期分の学生による授業評価は、令和 2 年 1 月末に実施し、これをうけて教員による授業点検シートの提出について令和元年度末までに提出・取りまとめを行った。

令和元年度前・後期における学生による授業評価は、表 1 に示す。学生便覧に掲載されている通りに、教養用教育分野(教養基礎科目、教養発展科目)、専門教育分野(専門基礎科目、専門科目)及び卒業論文の順に整理した。また、アンケート中の項目の評価は、従来通り、十分(4 点)～しなかった(0 点)で評価し、評価平均値を教員 GPA とした。令和元年度前・後期に学生便覧上、専任教員及び非常勤講師担当科目として準備されたされた科目数は 136 科目であったが、未開講科目数は 20 科目に及び、従って実質的に開講された科目は 116 科目であった。未開講科目数について、平成 30 年度文部科学省による再課程認定及び保育士養成課程における科目等の見直し(学年進行で履修するため、2019 年度新設科目として設置)と学生の教科力の実態から教科・教育法の見直し(主要 4 科目の教育法Ⅰ～ⅢをⅠ、Ⅱに減じ、同じ主要 4 教科について 1 科目 2 単位はⅠ&Ⅱ:4 単位に増やした。)を行い、また新たに学校インターンシップ科目(必修)を追加したためである。また、学校インターンシップはコロナ禍のため、受入れ可能な小学校や幼稚園・保育園が見つからず未開講となった。

学生による授業評価を総括すると、教員 GPA 点が 3.5 以上の科目が開講された 116 科目中 実に 93%であった。すなわち、GPA が 3.以下の科目はわずか 8 科目(6.9%)であった。講義当たりの学生数により若干教員 GPA が低下する傾向にあるとの報告があるが、いずれにしてもこれらの教員 GPA 値は極めて高い水準にあると判断している。小学校・幼稚園・保育所の教員養成学部として、学生に教科力と教育実践力を育成することを目的として設置されていることから、教員の教育力について本学部の教育改善のシステムが極めて有効に機能している証左であろう。

表1 令和元年度における学生による授業評価結果

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	2019年度 (令和元年度)				備考	
					前期		後期			
					受講者数	評価点 (平均)	受講者数	評価点 (平均)		
教養基礎科目	忍ヶ丘教養Ⅰ	1前	2	講義	52	3.6				
	忍ヶ丘教養Ⅱ	1後	2	講義			51	3.85		
	忍ヶ丘教養Ⅲ	2前	2	講義	42	3.67				
	忍ヶ丘教養Ⅳ	2後	2	講義			39	3.78		
教養教育分野	人と文化	文学	1後	2	講義				3.81	
		教育と社会	1前	2	講義	6	3.45			
		倫理学	1後	2	講義			44	3.80	
		心理学概論	1前	2	講義	48	3.60			
		日本語表現	1前	2	講義	14	3.74			
		音楽と文化	1前	2	講義	10	3.00			
		こども音楽療育士概論	1~4前	2	講義		3.86			
		こども音楽療育士演習	1~4後	1	演習		3.92			
		こども音楽療育士実習	1~4通	1	実習				—	3.89
		国際社会論	2前	2	講義	11	3.74			
	国際・社会系	現代社会と歴史	2前	2	講義	—				
		日本国憲法	1前	2	講義	52	3.76			
	自然科学系	数学と生活	1後	2	講義			22	3.81	
		環境と科学	1後	2	講義			29	3.94	
		生命と科学	1後	2	講義			13	3.64	
		食の科学	1前	2	講義	22	3.6			
		情報処理Ⅰ	1前	2	演習	52	3.61			情報処理*1
		情報処理Ⅱ	2前	2	演習	16	3.43			
	外国語系	英語Ⅰ	1前	2	講義	52	3.27			
		英語Ⅱ	1後	2	講義			20	3.80	
		英語コミュニケーションⅠ	1後	1	演習			51	3.88	
		英語コミュニケーションⅡ	2前	1	演習		3.62			
		英語コミュニケーションⅢ	2後	1	演習			5	3.75	
		Special Studies in EnglishⅠ	3後	1	演習					
		Special Studies in EnglishⅡ	4前	1	演習					
		健康の科学	1後	1	講義			51	3.72	
健康・体育系	体育実技	1前	1	実技	52	3.76				
	子どもと食育	1後	2	講義			9	3.66		
専門教育分野	専門基礎科目	教職概論	1前	2	講義	52	3.45			
		教育原理	1後	2	講義			51	3.72	
		教育心理学	1後	2	講義			51	3.82	
		教育制度論	3後	2	講義			40	3.57	
		保育原理	1前	2	講義	25	3.75			
		児童家庭福祉	3後	2	講義			22	3.93	子ども家庭福祉*1
		社会福祉	3前	2	講義	27	3.66			
		相談援助	4前	1	演習		3.56			子どもの家庭支援論*1
		社会的養護	3前	2	講義	26	3.59			社会的養護*1
		保育者論	1後	2	講義			27	3.92	
	対象の理解	保育の心理学Ⅰ	2前	2	講義	10	3.60			保育の心理学*1
		子ども家庭支援の心理学	2後	2	講義	—	—			2019年度新設科目
		保育の心理学Ⅱ	2後	1	演習			9	3.88	子どもの理解と援助*1
		子どもの保健Ⅰ	3通	4	講義	14	3.67			子どもの保健*1
		子どもの保健Ⅱ	3後	1	演習			12	3.98	子どもの健康と安全*1
		子どもの食と栄養	2後	2	演習			18	3.61	
		家庭支援論	4前	2	講義	21	3.64			
		臨床心理学	2後	2	講義			33	3.83	
		国語(書写を含む。)	1前	2	講義	52	3.70			国語Ⅰ(書写を含む。)*1
		国語Ⅱ	3前	2	講義	—	—			2019年度新設科目

専 門 教 育 分 野	教科・基礎技能	社会	1後	2	講義			41	3.93	社会I*1		
		社会II	3前	2	講義	—	—				2019年度新設科目	
		算数	1前	2	講義		3.67				算数I*1	
		算数II	3前	2	講義	—	—				2019年度新設科目	
		理科	1後	2	講義			40	3.80		理科I*1	
		理科II	3前	2	講義	—	—				2019年度新設科目	
		生活	2前	2	講義	40	3.69					
		音楽	1前	2	演習	52	3.87					
		図画工作	2前	2	演習	15	3.73					
		家庭	2前	2	講義	13	3.78					
		体育	1前	2	演習	17	3.61					
		英語	2前	2	講義							2019年度新設科目
		ピアノ・声楽I	2前	1	演習		3.53- 3.86					
		ピアノ・声楽II	2後	1	演習			30	3.67~ 3.96			
		ピアノ・声楽III	3前	1	演習	18	3.56- 3.86					
		ピアノ・声楽IV	3後	1	演習			40	3.88			
		子どもの音楽活動	2後	1	演習				3.83			
		子どもの英語活動I	2前	1	演習	44	3.69					
	子どもの英語活動II	2後	1	演習			20	3.77				
	教育課程・指導法	国語科教育法I	3前	2	演習	31	3.55					
		国語科教育法II	3前	2	演習	27	3.51					
		国語科教育法III	3後	2	演習			12	3.80			
		社会科教育法I	3前	2	演習	31	3.50					
		社会科教育法II	3前	2	演習	25	3.58					
		社会科教育法III	3後	2	演習			18	3.77			
		算数科教育法I	3前	2	演習	30	3.64					
		算数科教育法II	3前	2	演習	19	3.73					
		算数科教育法III	3後	2	演習			20	3.83			
		理科教育法I	2後	2	演習			31	3.72			
		理科教育法II	3前	2	演習	23	3.58					
		理科教育法III	3前	2	演習	21	3.62					
		生活科教育法	2後	2	演習			31	3.26			
		音楽科教育法I	2前	2	演習	35	3.69					音楽科教育法*1
		音楽科教育法II	3前	2	演習	19	3.82					
		図画工作科教育法I	2後	2	演習			34	3.70			図画工作科教育法*1
		図画工作科教育法II	3前	2	演習							
		家庭科教育法	3前	2	演習	32	3.56					
		体育科教育法I	3前	2	演習	30	3.82					体育科教育法*1
		体育科教育法II	3後	2	演習			18	3.73			
		英語科教育法I	2後	2	講義	—	—					2019年度新設科目
		英語科教育法II	3前	2	講義	—	—					2019年度新設科目
		道徳教育の指導法	2前	2	講義	33	3.74					
		総合的な学習の時間の指導法	2後	1	講義	—	—					2019年度新設科目
		特別活動の指導法	2後	2	講義			33	3.75			
		特別支援教育概論	3後	2	講義			24	3.58			コード変更SEN325
教育の方法と技術		2後	2	講義			42	3.79				
学級経営論		3前	2	講義	30	3.62						
協同学習論		3後	2	講義								
教育課程論		2前	2	講義	42	3.72						
環境教育論		3後	2	講義	13	3.2						
学習の科学		4前	2	講義	—	—						
特別演習		4前	1	演習	—	—						
生徒指導・教育相談	生徒指導・進路指導	2後	2	講義			33	3.78				
	幼児理解	3前	2	講義	43	3.68						
	教育相談	2前	2	講義	40	3.63						
	保育課程論	2前	2	講義	42	3.78						
	保育内容総論	2後	1	演習			40	3.63				
	保育内容指導法(健康)	2後	2	演習			23	3.71				
専 門 教 育 分 野	保育内容指導法(人間関係)	2後	2	演習			34	3.8				
	保育内容指導法(環境)	2前	2	演習	39	3.59						
	保育内容指導法(言葉)	2後	2	演習			10	3.92				

専門 教育分野 実習科目	保育内容・指導法	保育内容指導法(音楽表現)	2前	2	演習	36	3.68				
		保育内容指導法(造形表現)	2前	2	演習	41	3.84				
		障害児保育	3前	2	演習	19	3.41				
		保育相談支援	3後	1	演習					子育て支援*1	
		社会的養護内容	4前	1	演習	21	3.70			社会的養護II*1	
		乳児保育 I	1後	2	演習	—	—			2019年度新設科目	
		乳児保育	1後	2	演習					乳児保育II*1	
	保育の表現技術	ことばと遊び	1前	2	演習	36	3.86				
		音楽と遊び	1後	2	演習						
		造形表現演習	3前	1	演習	19	3.56				
		幼児体育演習	3後	1	演習			15	3.88		
	実習	教育実習指導	3後	1	実習			42	3.74		
		教育実習 I (小学校)	3後	4	実習			27	3.88		
		教育実習 I (幼稚園)	3後	2	実習			40	3.77		
		教育実習 II (幼稚園)	3後	2	実習			12	3.9		
		保育実習指導 I	2後	2	演習			9	3.92		
		保育実習 I a	2後	2	実習			9	3.95		
		保育実習 I b	3前	2	実習	14	3.39				
		保育実習指導 II	4前	1	演習	11	3.60				
		保育実習 II	4前	2	実習	11	3.55				
		保育実習指導 III	4前	1	演習	—	—			未開講	
		保育実習 III	4前	2	実習	—	—			未開講	
		学校インターンシップ	1前	1	実習	—	—			*2	
		実践演習	教職実践演習(幼・小)	4後	2	演習	—	29	3.53		4年後期のため、未実施
			保育実践演習	4後	2	演習	—	11	3.70		4年後期のため、未実施
		介護等体験	介護等体験	3前	1	実習	30	3.74			
卒業論文	卒業論文	4通	4	演習	31	3.91					

\*1 2019年度より科目名称変更

## 【教員による授業点検シート】

教員による授業点検シートは、学部の授業改善に関する教員個人の PDCA サイクル の一環として重要であることから、以下の事項をアンケートとして回答し、FD 委員会委員長あてに提出している。

特に、教育改善につながる PDCA サイクルの中で、「学生による授業評価から見た来年度の課題として、教員がどのように改善するかを明記する」ようにしている。各教員から提出された授業点検シートは、的確に問題点がある場合には改善方法等が明記されている。例えば、ある科目では、平成 26 年度学部設置後の学生による授業評価 GPA が平成 26 年度～令和元年度の 6 年間にわたり、それぞれの GPA が平成 26 年度:3.70、平成 27 年度 3.62、平成 28 年度:3.31、平成 29 年度:3.73、平成 30 年度:3.67、令和元年度:3.67 であり、また、学生のコメントや期末試験結果の分布等を総括して、授業改善をおこなっている。これらについて、教育学部 FD 委員会において確認していることから、教育学部として授業改善につながる学部としての組織的な FD 活動につな

げている

教員による授業点検シート

作成日 月 日

平成 年度	授業科目：	担当者：
授業の期別・曜日・時限： 期・ 曜・ ～ 時限		単位数：
授業の区分： 専門教育科目（必修・選択必修・選択）		教室：
受講者数（最終的に成績評価した学生数）： 学科内 名、 学科外 名		
「学生による授業評価」の実施： した・しなかった		出欠確認回数： 回
授業回数（試験を含まない）： 回	休講回数 <sup>(注1)</sup> 回	
休講に対する代替措置（補講、レポート、その他）およびその回数：		
授業の方法・工夫（板書、使用機器、教科書、講義資料など）：		
成績評価方法（試験、レポートなど）と評価の基準：		
レポートおよび答案の返却（返却時期と返却の仕方など）：		
成績評価の内訳 <sup>(注2)</sup> ：秀 %、優 %、良 %、可 %、不可 %		
シラバスに記載した授業計画の達成度：		
学生の学習状況（予習、復習、質問など）と学習態度：		
「学生による授業評価」から見た来年度の課題：		

注1：時間割に規定されている時間に授業を行わなかった回数

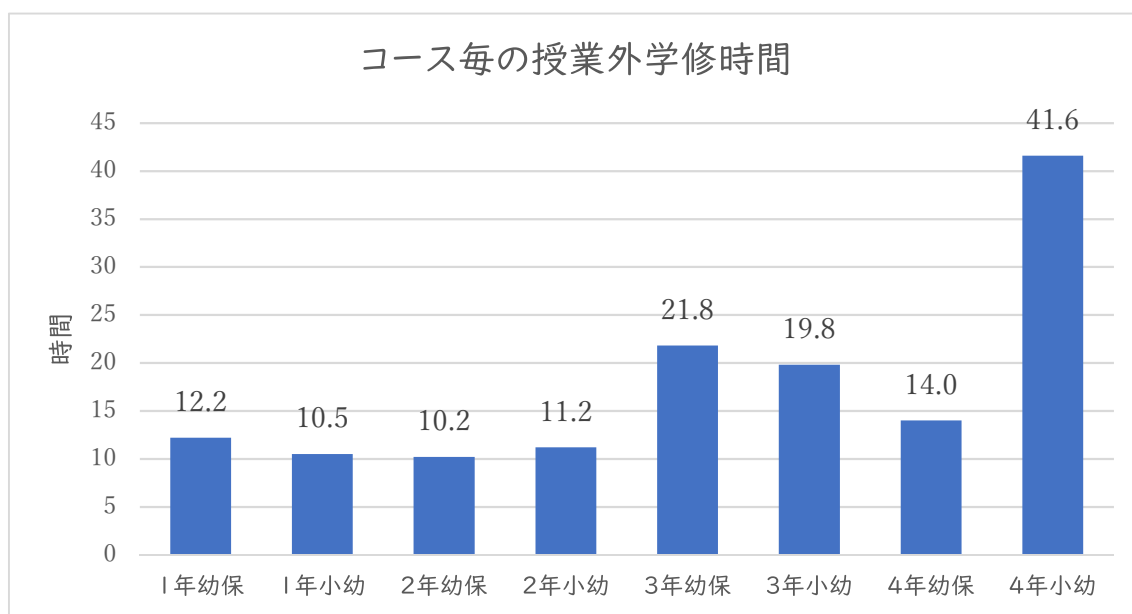
注2：比率算出の母数は最終的に成績評価した学生数とする。再・追試験を含めて試験終了後に提出する。

以上のように、本学部では、少なくとも専任教員は学生による授業評価及びこれをうけて教員による授業点検を行った結果を授業点検シートとして、FD 委員会へ提出することを介して授業改善に努めていることが確認され、このような教員が大多数であることは、本学の教育の水準を維持・向上に心強い限りである。

### 【学生の授業外学修時間の調査結果】

学生の授業外学修時間の調査は、例年学期末試験前に学生による授業評価を行い時に同時に Web システムで調査している。今回、後期における結果と同様であることから、前期分について報告する。

- ・調査期間：令和元年 7 月 17 日（水）～令和元年 7 月 31 日（水）の間
- ・調査対象学生：教育学部 1 年生～4 年生（今回は、各学年の教育コース別に集約・整理した。）



授業外学修時間（大学における講義以外で自主的に勉強する時間数）は、大学の設置基準では、1単位15時間の講義に対して30時間を求めている。日米の比較を行ったある調査では、大学生の1週間あたりの学修時間の日米比較（2007 年）によると、日本で最も多いのが 1-5

時間 57.1%（アメリカは 15.3%）、アメリカで最も多いのが11時間以上 58.4%（日本では 14.8%）で、日本の大学生の学修時間の少なさは顕著でした。教育学部では、1日当たり少なくとも3時間以上（1週間当たり21時間以上）の授業外学習（自宅学習）を実践するように指導している。

令和元年度前期における授業外学修時間について調査した結果、1年次～2大学生の1週間あたりの学修時間の日米比較（2007年）によると、日本で最も多いのが1-5時間 57.1%（アメリカは 15.3%）、アメリカで最も多いのが11時間以上 58.4%（日本では 14.8%）で、日本の大学生の学修時間の少なさは顕著であったことが報告されている。本学部における小幼コース及び幼保コースの学生の1年生～3年生における授業外学修時間は、1週間あたり10時間前後（1週間当たり1、2時間の勉強）で、アメリカにおける大学生に比べ、低い傾向にあった。一方、3年次に進級すると、両コースの学生はともに1週間あたり20時間前後まで増加するようであった。4年次では、小幼コース学生は40時間以上（1日5、7時間）の授業外学修時間となった一方で幼保コース学生は逆に14時間に減少した。特に、4年生の小幼コース学生は、各県で実施される教員採用試験が7月中旬にあることから、現役合格を目指して勉強していることが考えられ、現役合格という目的をもった学生の頑張りには目を見張るものがあった。以上のように、教育学部学生は、1年次～4年次を通して、国公立私立大学の学生の平均的授業外学修時間以上の時間数を勉強している実態が浮き彫りになった。

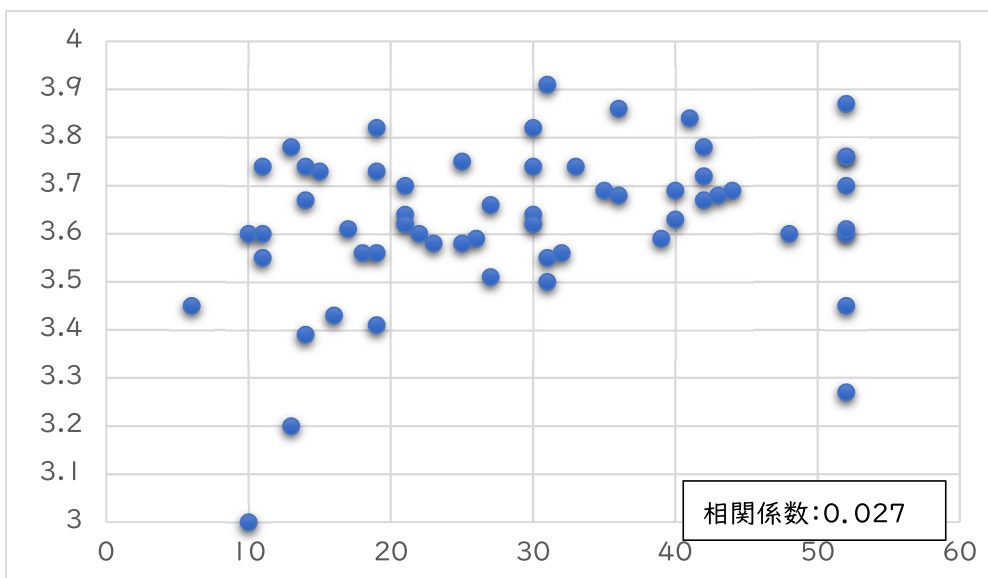
#### 【受講者数と授業評価GPAとの関係】

平成28年度のFD活動に関する報告書において、講義・演習における教育効果は、クラスサイズ（受講者数）が出来るだけ小さい（少ない）方が大人数講義に比べマンツーマンに近づき効率的である可能性を報告した。なお、本学部では英語教育などの一部の科目で少人数教育を実施している。また、座学の講義より、実技系の演習科目は少人数の方が教育効果が出やすい傾向にあることが報告されている。今年度のFD報告書で、「受講者数と学生による授業評価GPAとの間の関係」

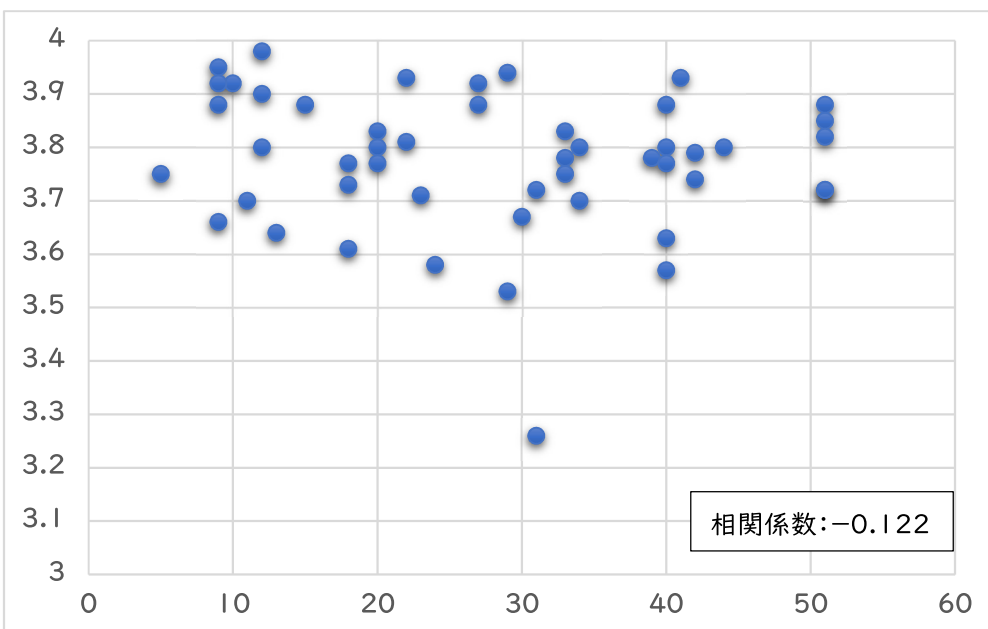


について、前期及び後期の結果を比較した。その結果、前期及び後期における専任教員の担当する科目における受講者数と学生による授業評価GPAとの間には全く相関関係は認められなかった。

令和元年度前期における授業評価 GPA と受講者数の関係



令和元年度後期における授業評価 GPA と受講者数の関係



以上のように クラスサイズは学生による授業評価結果とは関連しておらず、むしろ教育学部教員による丁寧で熱心な授業を行うことが重要であることが示唆された。